

平成 2 9 (2017)年度

京都大学経済学部

外国人留学生特別選抜試験問題

※問題は 2 問あります。

※解答は 1 問につき、1 枚の
解答用紙を使用すること。

間違っって解答した場合は無効となります。

次の文章は、今井むつみ『学びとは何か——〈探究人〉になるために』（岩波新書、二〇一六年）からの抜粋である。この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

第2章で述べたように、子どもが母国語を学習する際に、母国語について様々なスキーマをつくりあげ、学習を加速させていく。形ルールをはじめとしたスキーマは誤って使ってしまうと、学習の妨げになるはずだ。しかし、どういうわけか、子どもが母国語を学ぶときには、このことはまったく問題にならない。スキーマをいつ、どのように使うのかを子どもは心得ていて、思い込み知識にすぎないスキーマが学習の妨げになることはないのである。

しかし、外国語の学習の場合にはどうだろうか。形ルールのように、どの言語にも共通して使える思い込み知識はよい。ところが、母国語と外国語の間にズレがあると母国語についてのスキーマを外国語に適用すると外国語の学習を妨げてしまう。しかし多くの人は母国語についての「思い込み知識」を持っていることを意識することすらほとんどないため、それを外国語の学習の時に、同じように無意識に使ってしまうのだ。

〔中略〕

最もわかりやすいのは、単語の意味の学習の時だ。子どもは母国語の単語の意味を、直接教えてもらうのではなく、自分で考えて学習している。しかし、大きくなってから外国語の単語の意味を学習する時には、たいていの場合、辞書で与えられる母国語の訳をその単語の「意味」として覚える。その時、実際には、外国語のその単語が、訳語として対応づけられた母国語の単語とまったく同じ範囲で同じように使えると思いきや、間違いがちだ。

例えば、日本語の動詞「着る」と英語の動詞「wear」とは同じ意味だ、と知っている人は少なくないだろう。しかし、「着る」と「wear」の意味は、それぞれのカバーする意味範囲のほんの一部が重なっているにすぎない。「着る」の対象は体の上半身を被う着衣に限定され、ズボン、くつ下などは「履く」し、帽子は「かぶる」し、指輪やアクセサリなどは単に「つける」「する」と言う。一方、英語ではこれらはすべて「wear」の対象であるばかりか、化粧品や「wear」の対象になるのである。

単に「着る」のほうが「wear」より範囲が狭く限定的であるだけかというところ、そうとも限らない。例えば、「着る」は身につける動作と身につけている状態を両方表すが、「wear」は身につけている状態のみを表し、身につける動作はまったく別の動詞「put on」を用いなければならぬ。

筆者が以前に行った調査では、日本人の大学生の多くは「着る」の対象をシャツ、ドレス、制服など「着る」の対象にのみ用い、指輪や帽子を対象に用いることには抵抗感を示した。その一方、英語ネイティブの人がまったく間違っていると判断した「身につける動作」の意味での「wear」の使用(例えば「Hurry up and wear your clothes quickly.」などの文)は正しいと判断した。

つまり、日本人の大学生の多くはそれまでに最低六年間、英語を学んでいたにもかかわらず、「wear」のように日常的で非常に高頻度の動詞でさえ、その意味を正しく理解していないことがわかったのである。その原因は、「着る」と「wear」がまったく同じ範囲で同じように使える同じ意味のことばであると、無意識に想定しているからだだったのだ。

〔中略〕

母国語と外国語での語の意味の違いは単にそれぞれの単語の意味範囲が一致しないということにとどまらない。そもそも語彙の構造そのものが大きく異なることが多い。例えば、人の移動を表すのに日本語では「走る」「歩く」「ころがる」「すべる」など、限られた数の動詞しか様態(動き方)の区別がない。それ以上に細かい様態の情報を言語表現に組み入れようと思つたら、「よたよた歩く」「ずんずん歩く」「足を引きずりながら歩く」「ぶらぶら歩く」「つま先立ちで歩く」など、副詞句で動詞を修飾するしかない。

一方、英語ではこれらに対して、「stagger」(よろめく)、「swagger」(ずんずん歩く)、「limp」(足を引きずって歩く)、「amble」(ゆるやかに歩く)、「tip-toe」(つま先立ちで歩く)など、それぞれの様態で歩く動作について独立した動詞が存在する。

音がする様子の表現も、日本語では音の種類自体を動詞自体で区別することはない。「ドアがキーと鳴った」「風がゴーという音をたてた」「かさかさ」と葉の音がする」など、「音がする」「鳴る」といった限られた数の動詞をおもに擬音語で修飾する。それに対して英語は、音の種類そのものを意味の中に組み込んだ動詞が多数存在する。それらの動詞によってさまざまな音がする様子が表現される。

ちなみに「ドアがキーと鳴った」は「The door squeaked.」「風がゴーという音をたてた」は「The wind roared.」「葉がかさかさ」と音をたてた」は「The leaves rattled.」と表現される。日本語の「擬音語プラス音がする」表現がすべて一語の動詞として表される。

母国語話者は母国語について通常の辞書には書かれていない母国語の語彙についてのスキーマをたくさん持っている。このような知識を自分が持っていることには気がついていないが、この知識(スキーマ)にもとづいて言語を操り、新しい単語の意味の学習をしているのである。要するに、外国語の単語の意味をきちんと理解するためには、母国語とは別に、その外国語でのその概念領域の意味地図をゼロからつくり直さねばならないのだ。科学の概念の学習でも、誤ったスキーマ克服は容易に起こらないが、外国語の学習では、ほぼすべての単語の学習においてそのプロセスを経なければならぬのである。

⑧ スキーマとは、行間を補うために使用する常識的な知識のことを意味する。

設問一 子どもが「スキーマ」を用いて、どのように母国語を習得するのかについて、本文の内容を踏まえて説明しなさい。

設問二 母国語の「スキーマ」が外国語の学習に及ぼす影響について、本文の内容を踏まえて説明しなさい。

設問三 傍線部「誤ったスキーマ」に関して、あなたが外国語など新しいことを学習するときに、どのように「誤ったスキーマ」を認識し、そして、どのように「誤ったスキーマ」を克服したのかについて、あなたの経験を具体的に説明しなさい。

次の文章は、坂井豊貴『マーケットデザイン——最先端の実用的な経済学』（ちくま新書、二〇一三年）からの抜粋である。学生寮を例に、入居希望者にどのように部屋を割り当てるのが望ましいかを考える「住宅市場モデル」を説明している。この文章を読んだ、以下の問いに答えなさい。

住宅市場モデルとは次のようなものです。いま学生寮があり多くの学生が入居しています。ひとりの学生はひとつの部屋を持っており、各部屋は場所や陽当たりや家賃などの諸条件が異なります。

そして何人かの学生は、「やはりいまの部屋より、あっちの部屋のほうがいいな」と考えています。例えば、「自分の部屋は陽当たりが良いが、どうせ日中は部屋にいないので、暗くていいから家賃の低い部屋に移りたい」とか、「少し家賃が上がってもいいから、広めの部屋に移りたい」のように思っているわけです。

そこでいまの部屋に満足していない学生は部屋を交換するため一堂に会することになります。ただしこの場に集まったからといって交換を強要されることはないし、望む部屋へ移れる保証があるわけでもありません。

その場での最低限の取り決めとして、誰も今より嫌な部屋には移らないという条件を尊重することになります。この条件を個人合理性といいます。

(中略)

これから住宅市場モデルを簡単な例により見ていきましょう。いま四人の学生1、2、3、4がおり、各自は学生寮に自分の部屋を持っています。分かりやすくするために、それぞれの学生が住んでいる部屋を、その人の名前で呼ぶことにしましょう。

つまり学生1は部屋1、学生2は部屋2、学生3は部屋3、学生4は部屋4にそれぞれ住んでいます。彼らはいまの部屋に満足しておらず、また、あの部屋のほうがいいな、その部屋は嫌だなといったように、四つの部屋(部屋1、2、3、4)に対して順位をつけています。

順位 人名	1 位	2 位	3 位	4 位
1	4	3	2	1
2	3	4	2	1
3	2	4	1	3
4	3	2	1	4

この表を見ると、例えば学生1にとって1位は部屋4、2位は部屋3、3位は部屋2、4位は部屋1の順番で好んでいます。こうした順位付けのことを選好と呼びます。

ここで誰も今より嫌な部屋に移さないといい、個人合理性を尊重するのは容易です。そもそも学生1と3と4は自分にとって最下位の部屋に住んでおり、それ以上嫌な部屋に移りようがないからです。つまり個人合理性の要求は学生2が部屋1には行かないことを求めるに過ぎません。そして、それを満たす学生と部屋の組み合わせはたくさんあります。ではその中で、どの組み合わせをどのように選ばればよいのでしょうか。

問1 学生と部屋の組み合わせを「配分」と呼ぶことにする。以下の配分のうち、個人合理性を満たすものをすべて答えよ。

配分① 学生1が部屋3、学生2が部屋4、学生3が部屋1、学生4が部屋2

配分② 学生1が部屋3、学生2が部屋1、学生3が部屋2、学生4が部屋4

配分③ 学生1が部屋1、学生2が部屋2、学生3が部屋3、学生4が部屋4

配分④ 学生1が部屋4、学生2が部屋1、学生3が部屋2、学生4が部屋3

問2 もし、学生3と学生4が事前に部屋を交換していて、学生1は部屋1、学生2は部屋2、学生3は部屋4、学生4は部屋3に住んでいたとする。この場合に個人合理性を満たす配分を、すべて答えよ。なお、ひとつの部屋に入居可能な人数はひとりのみである。

問3 再び、学生1が部屋1、学生2が部屋2、学生3が部屋3、学生4が部屋4に住んでいる状況を考える。もしあなたが学生1、2、3、4に対して自由に部屋を割り当てることができるのであれば、どのような配分を選択するか。ひとつの部屋に入居可能な人数はひとりのみである。自分が望ましいと考える配分と、その根拠を述べよ。